

再検証対象の公立・公的病院及び高度急性期・急性期機能を有する民間病院の具体的対応方針（その 2）

十和田市立中央病院

役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

【役割・医療機能】

当院は、地域の中核となる公立病院として「急性期機能の充実」「圏域内自治体病院等への支援」「在宅医療の提供」の役割を担うとともに、救急医療、小児医療、感染症医療、災害医療等を引き続き担っていく。

また、より高度かつ専門的な医療を担うことが必要と考えており、具体的には、これまでの役割を行いつつ、HCU（高度治療室）を開棟するなど、総合的かつ専門的な急性期医療の提供を行っていく。

【病床規模の最適化に係る検証】

上十三医療圏は、人口 10 万人当たりの病床数が県全体や全国と比べて少ない状況にある。

また、総人口は減少傾向にあるが、医療需要の多い 65 歳以上の人口は 2025 年まで、75 歳以上の人口は 2035 年まで増加傾向にあることから、入院患者数のピークは 2035 年に迎えることが見込まれる。

今後も人口推移、病床利用率、地域医療構想での協議を踏まえ、必要な病床を確保していく。

【その他】

地域包括ケア病棟入院料の施設基準要件が満たせないことに加えて、新型コロナウイルス感染症の影響により、休棟中した 1 病棟（46 床）については、再稼働できていない状況である。今後院内で再稼働できるかの検討を進める予定。

医療連携の考え方

【基本方針】

高齢化が進展し、在宅医療や介護の需要が高まる中、要介護者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構成に寄与する。

かかりつけ医など地域の病院の後方支援病院として、救急患者の受入れ、急性期患者の紹介・逆紹介を実施する。

【具体的な医療連携】

がん領域

- ・令和 2 年 3 月に地域がん診療病院取得し、青森県立中央病院やその他の拠点病院と連携しつつ専門的ながん医療の提供、相談支援や情報提供などの役割を担っている。
- ・地域連携パスを活用し、当院で急性期治療を終了した患者をかかりつけ医に紹介し、当院と連携を図りながら治療提供を行っている。

心疾患領域

- ・急性心筋梗塞に対する心臓カテーテル手術を実施しており、引き続き当院が担っていく。
ただし、外科的手術は、心臓外科を標榜していないため、青森県立中央病院や八戸市立市民病院と連携を図っている。

脳卒中領域

- ・脳卒中に対し、緊急手術やt P A療法を実施できる体制になっており、引き続き当院が急性期の治療を提供していく。
- ・血管治療については、患者の状態によって、弘前大学医学附属病院、弘前総合医療センター、青森市民病院及び八戸市立市民病院と連携を図り、血管内治療ができる医師を当院に派遣してもらい当院で治療する体制や、当院から連携先の医療機関に転院し治療を行う体制を構築している。

救急領域

- ・救急告示病院及び二次救急として、引き続き救急医療を担っていく。

小児領域

- ・小児の救急及び入院を行っており、引き続き担っていく。
- ・新生児は、近隣の医療機関と連携する。

災害領域

- ・災害拠点病院として、災害が発生した際は、上十三地域の医療ニーズに合わせ、当院が中心となり、地域の医療機関の支援を行う。

研修・派遣領域

- ・三沢市立三沢病院及び公立七戸病院と地域医療連携推進法人「上十三まるごとネット」を構成しており、同法人において、職員の人事交流及び資質向上に関する共同研修を実施する。

在宅領域

- ・当院及び附属診療所による、在宅や介護施設の患者に対する訪問診療を行う。
- ・訪問診療を行っている地域の病院に対する支援・連携を行う。

上記領域以外も含め、以下の主な医療連携先と連携を図り医療を提供する。

【主な医療連携先】 ※令和4年度において紹介及び逆紹介患者数が多い主な医療機関
上十三地域・・・十和田第一病院、小川原湖クリニック、公立七戸病院、十和田外科内科、十和田東病院、工藤医院、藤原内科、岡本整形外科クリニック、篠田医院
青森地域・・・青森県立中央病院
津軽地域・・・弘前大学医学部附属病院
八戸地域・・・八戸市立市民病院

三沢市立三沢病院

役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

【役割・医療機能】

- ・「青森県がん診療連携推進病院」として、医療機器や体制を整備し、専門的ながん医療を提供しています。
- ・圏域内において周産期医療を扱っている唯一の公立病院として診療を行っています。

【病床規模の最適化に係る検証】

- ・将来において圏域で不足する回復期の病床について、地域包括ケア病棟がその役割を担うものと想定し、現時点では国へ報告しておりますが、今後における圏域内での話し合い及び隣接圏域の状況などを踏まえて対応を行ってまいります。

医療連携の考え方

【基本方針】

- ・病病連携、病診連携を推進し、保健、福祉部門とのネットワークの構築に努め、地域包括ケアシステムを支える役割を担いながら、医療の提供を行います。

【具体的な医療連携】

- ・在宅療養後方支援病院として、在宅療養患者が安心して在宅医療を受けられるように、在宅診療を行う開業医との連携を行っています。
- ・令和3年度に一般社団法人まるごとネットを設立し、令和5年度より、十和田市立中央病院と新たに公立七戸病院を加え、当院相互に関する医療連携推進業務を行っています。

公立七戸病院

役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

【役割・医療機能】

当院の構成町（七戸・東北町）唯一の公立病院として、救急受入体制を維持しながら、通常の外来・入院診療及び、健診事業による地域住民への予防医療の中心的役割を担う。地域の人口減少は進んでいくものの、後期高齢者人口は、2030 年時七戸町で 20.7%、東北町で 18.2%の増加見込みとなっているため、地域の医療・介護事業所や行政と、緊密な連携を取りながら、変化していく医療需要に対して、適切な医療支援を提供していく。

【病床】

令和 5 年度 急性期 74 回復期 36→110 床

令和 7 年度 急性期 42 回復期 28→70 床

40 床減床

【病床規模の最適化に係る検証】

前述のとおり、一定期間後期高齢者人口は増加していくものの、地域の総体的な人口減少も顕著になる。よって、令和 7 年度以降も段階的な急性期病床の削減と、回復期の医療需要の増加に対応できるように、病床の機能変更も考慮の上、病床利用率の改善と効果的な医療提供体制を構築する。

医療連携の考え方

【基本方針】

地域医療連携推進法人「一般社団法人上十三まるとネット」に令和 5 年加入。上十三地域の基幹病院である十和田市立中央病院と三沢市立三沢病院との連携を強化していく。

弘前大学・青森県立中央病院からの非常勤医師派遣についても継続要請の上、維持していきたい。

【具体的な医療連携】

・弘前大学

複数の診療科と救急体制維持のための日当直に医師を派遣していただいている。今後も継続要請の上維持していきたい。

・十和田市立中央病院

現在、救急体制維持のために当直医の医師を派遣していただいている。今後は、地域医療連携推進法人の枠組みの中で、医師や看護職員の相互派遣等の人事交流が円滑に成されるような取り組みをしていきたい。

- ・地域医療連携推進法人関係

十和田市立中央病院と三沢市立三沢病院との円滑な連携により、外来・入院機能と2次救急機能の維持に努めたい。

また、高度急性期医療の患者の紹介と、急性期医療後の患者の受入を積極的に行い、後方支援病院の機能を強化していきたい。

【その他】

令和5年8月に新設した訪問看護ステーションによる訪問看護サービスの提供と、これまでも実施してきた訪問診療により、在宅医療サービスの拡充を図り、当院から在宅復帰した患者の訪問診療と訪問看護の実施とともに、在宅医療の新規需要を取り込んでいきたい。構成町唯一の公立病院として、地域に対する切れ目のない医療・介護・福祉サービス提供のため、行政や近隣の施設と連携し、介護・福祉領域への橋渡しを行っていく。

公立野辺地病院

役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

【役割・医療機能】

圏域北部に所在する唯一の公立病院として、引続き地域住民への安定した医療提供体制の確保に努める。「青森地域」、「八戸地域」、「下北地域」と隣接していることから、圏域を超えた医療連携の強化を図り、また、近隣の医療福祉施設等との連携強化にも努め、医療・介護・福祉が連携した地域医療の構築に努めていく。

【病床規模の最適化に係る検証】

病床の規模は、人口が減少する中、高い病床利用率であることから、現状（151床）を維持する。

（病床利用率）

急性期：R2：71.4% R3：74.6% R4：71.3%

慢性期：R2：71.4% R3：87.1% R4：80.2%

全病床：R2：71.4% R3：77.2% R4：73.1%

機能については、今後の医療需要や患者構成、また圏域内の医療機関等の状況を踏まえ検討していく。

（予定）

現 在：急性期 120床、慢性期 31床

令和7年：急性期 60床、回復期 60床、慢性期 31床

【その他】

引続き救急告示病院及びへき地医療拠点病院の役割を担っていく。

また、令和4年度から耐震不足を含む施設の老朽化から、新病院建設について検討を開始した所である。

医療連携の考え方

【基本方針】

複数の診療科において他院からの応援診療を受け、外来診療を行っている。高い在宅復帰率を維持し、在宅医療の強化、地域包括ケアシステムの構築を引続き行い、退院後の療養生活の支援に努める。また、地域連携パス等を活用し他院との連携強化を図り、医療・介護連携を強化し、地域住民へ安定かつ安心した医療の提供に努める。

【具体的な医療連携】

・青森県立中央病院

複数の診療科で応援診療をいただいております、受診する患者へ質の高い医療の提供を維持でき

ている。紹介患者及び逆紹介患者が最も多く、今後も地域連携パスなどを活用して連携し、地域住民へ医療の提供を継続していく。

- ・十和田市立中央病院

圏域内で紹介患者及び逆紹介患者が最も多く、令和6年度に「まるごとネット」に参加予定であり、更なる連携強化に努める。

- ・その他（戸館内科整形外科医院等民間クリニック）

近隣の民間クリニック等とも連携しており、救急対応や訪問診療の役割を担っている。今後も連携を図り、地域全体で質の高い医療・介護の提供に努めていく。

【その他】

- ・圏域北部に所在する唯一の救急告示病院として、医療機関のみならず、救急との連携も強化していく。メディカルコントロール協議会にも参加し、また、他院より宿日直の応援を頂きながら、安定した救急医療の提供を図る。
- ・令和6年度に新規事業としてモバイル ICT を活用したアプリ「Join」の導入を予定しており、更なる救急の連携強化に努める。

医療法人泰仁会十和田第一病院

役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

【役割・医療機能】

- ・病床数 60 床（一般病床 10 対 1 入院基本料）すべてを急性期として今後も継続していきたい。
- ・救急告示病院として年間 215 件の救急車の受け入れを行い救急医療を実施しております。
- ・また、耳鼻咽喉科の入院にも対応可能な数少ない病院です。

【病床規模の最適化に係る検証】

- ・令和 3 年度の病床利用率は 81.9%、稼働率は 88.9%令和 4 年度はコロナの影響もありやや減少しましたが病床利用率 77.8%、稼働率 83.9%で推移しており、平均在院日数も令和 3 年度 11.7 日、令和 4 年度 11.06 日で現病床数は維持していきたい。

【その他】

令和 7 年時点では、現状維持が適当と考えるものの、今後、人口減少や高齢化が進行する中で、地域において必要となる役割・医療機能、病床規模については、検討を続けていきたい。

医療連携の考え方

【基本方針】

- ・当院は、訪問診療も実施しており、在宅（居宅）や介護施設から患者を受け入れ、地域に密着した幅広い医療を提供しています。

【具体的な医療連携】

- ・地域の身近な病院であることを目指し、開業の先生方との病診連携、より高度な医療機能を有する病院との病病連携、更には高齢者施設との連携に力を入れております。

医療法人赤心会十和田東病院 ※「調整中」のため次回協議

役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

【役割・医療機能】

高齢化社会が益々進む中、整形外科領域の患者の増加が予想されます。地域社会において骨折後寝たきりの状態になり、その後の家族への負担が大きな社会問題となっております。コロナウイルスの発生により社会活動が制限され、患者も減少しておりましたが、今後は通常の社会活動に戻ることに伴い患者の増加が見込まれる状況にあると考えており、そのためには必要な病床の確保も重要と考えます。現実、最近当院では高齢者の骨折入院が増えております。

【病床規模の最適化に係る検証】

出生率の低下等で小児の患者の減少が見込まれる中、小児の入院を停止、入院が必要と判断した患児は十和田市立中央病院、三沢市立三沢病院との連携を強化し、上十三地域の小児医療を行っていきたいと考えております。

調整中の病床数は10床減らして50床での急性期を検討しております。

手術件数 令和4年度 総数 月平均28件（内全麻21件）

朝8時からの手術を進めており、状態が良ければ出来るだけ手術当日の入院を進めている。朝7時からの診療スタートであるため早朝からの入院を受け入れている。連携先の十和田東クリニックは日曜、祭日も診療のため入院依頼は夜間を除き受け入れている。

医療連携の考え方

【基本方針】

上十三地域において、小児科領域・循環器科領域の外来を中心に地域連携を図り、また整形外科領域においては紹介患者の迅速な手術等を担って地域の医療向上に貢献して行きたいと考えております。

【具体的な医療連携】

小児科領域においては、外来を中心に医療を行いその中から地域連携の強化を図り、入院の必要な患児は十和田市立中央病院、三沢市立三沢病院に紹介しております。整形外科領域においては、紹介元の十和田東クリニックとの連携を密にし、紹介患者の手術等の治療を行い早期退院を目指し、紹介元での治療連携を進めて行きたい。

【その他】

現在まで、コロナワクチン接種に積極的参加し多くの市民に接種を行い入院患者へのコロナワクチン接種にも積極的に関わって参りました。また、発熱外来も小児を中心に大人の診療も行っていました。

今後も地域の医療の向上に勤めて参りたいと考えております。

医療法人社団良風会ちびき病院

役割・医療機能及び機能別病床数の考え方

【役割・医療機能】

役割は地域医療とし他医療機関と連携を図り、地域の医療を支えている。当院は救急病院ではないが、地域医療として東北町はもちろん近隣の野辺地町、七戸町、横浜町、六ヶ所村の患者さんも多く、かかりつけであれば救急を受け入れている。小さい病院ではあるが、消化器は専門に医師を招集し、出来る限り患者さんには負担にならないよう安心を提供している。

医療機能と機能別病床数では、ケア病床を準備し患者さんのニーズになるべく応じられるよう考えている。

【病床規模の最適化に係る検証】

コロナ以降、感染に関して看護師の業務が多くなり、入院患者数の制限も解除できない状況もある。また、地域の人口を考えれば減少する流れから、病床数を減らす必要もあるのではと考えている。しかし、一方では外来での内視鏡検査が増えている、そのための入院が必要な場合にベッドコントロールでの病床も必要としている。

【その他】

東北町にて当院の役割は非常に高く、今回のような危険な感染症での対応についても、積極的に国や県と連携して医療に努めました。もし、当院が発熱外来に手を上げなければ、この地域は混乱し県への負担は想像以上と考えます。

医療連携の考え方

【基本方針】

一般内科、糖尿病内科、呼吸器内科、循環器内科、精神科、整形外科、消化器外科など、大学からの応援を受けながら、外来診療をしている。当院は往診や施設管理を積極的に行っており、在宅復帰後のケア、看取りも含め在宅医療強化に努めている。

【具体的な医療連携】

主な紹介元では、同じ町内にある小川原湖クリニック、吉田医院、また当院に応援に来て下さる、中山内科医院からの紹介が多い。紹介先は病状にもよるが、県立中央病院、十和田市立中央病院、野辺地病院が多い。感染や医療安全では、三沢市立病院、七戸病院などと連携している。